

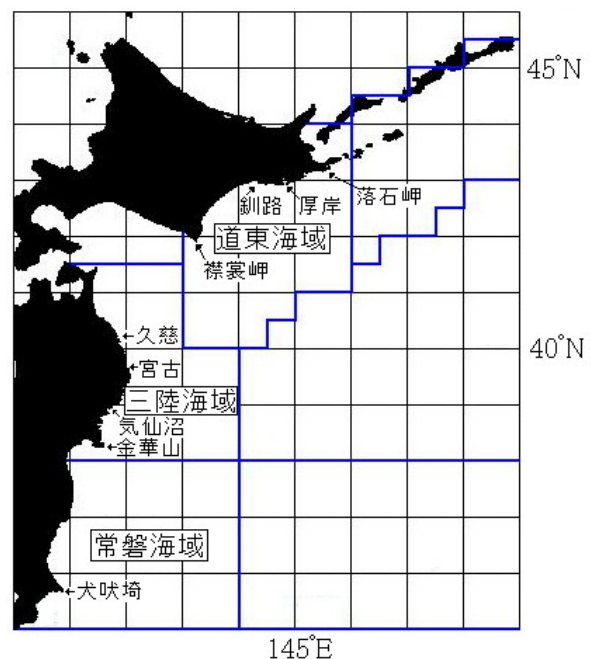
2026年度 第4回サンマ中短期漁況予報

ー 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 ー

今後の見通し(2026年10月中旬～11月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月中旬は、低位水準で増加する。
- ・三陸海域では、10月中旬は断続的な来遊があり、10月下旬は低位水準で増加する。
- ・常磐海域では、11月中旬になると来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：渡邊、源
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.jafic.or.jp/information/category/gyokyo/>

2026年度 第4回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2026年10月中旬から11月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月中～下旬は低位水準で増加する。11月上～下旬は低位水準で減少する。

(2) 漁場

道東海域では、10月中旬は落石～釧路沖、10月下旬～11月中旬は落石～襟裳岬沖、11月下旬は襟裳岬沖に漁場が形成される。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬は、断続的な来遊がある。10月下旬～11月上旬は低位水準で増加し、11月中～下旬は低位水準で推移する。

(2) 漁場

10月中旬は、漁場は形成されない。漁場は、10月下旬～11月上旬は三陸北部に、11月中～下旬は三陸北部～南部に形成される。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月中旬～11月上旬は、魚群の来遊は無い。11月中～下旬は断続的な来遊がある。

(2) 漁場

10月中旬～11月上旬は、漁場は形成されない。11月中～下旬は、常磐北部に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	低位増加	低位増加	低位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	落石～ 釧路沖	落石～ 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	断続的	低位増加	低位増加	低位水準	低位水準
	漁 場		三陸北部	三陸北部	三陸北部 ～南部	三陸北部 ～南部
常磐海域	来遊量				→	→
	動向				断続的	断続的
	漁 場				常磐北部	常磐北部

3. 漁況の経過概要（9月下旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

CPUE（1網あたりの漁獲量）から判断すると、道東海域における来遊量は、9月中旬を上回ったものの、前年を下回り、低位水準であった。

主漁場は、道東海域より東～南側の公海であった。大型船で1日1隻あたり最高で23トン程度であり、9月中旬より増加したものの、前年より少なかった。またCPUEは前年を下回った。

(2) 漁場

道東海域では、落石沖に漁場が形成された。落石南～南南東沖20～50海里の漁場水温17～19℃では、小型船主体に大型船数隻が操業し、大型船で最高で6トン、平均1.9トン漁獲した。

主漁場は、道東海域より東～南側の公海であった。落石東南東290海里～南南東240海里の漁場水温14～20℃では、大型船5～40隻程度と小型船が操業し、大型船で最高で23トン、平均3.3トン漁獲した。

(3) 魚体

道東海域では、小型魚が主体であった。

道東海域よりも東～南側の公海では、体長25～32cmが主体、体重50～120g台が主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

三陸海域では、前年同様、漁場は形成されなかった。

三陸海域の東側である、気仙沼東沖では、9月29日以降、漁場が形成された。

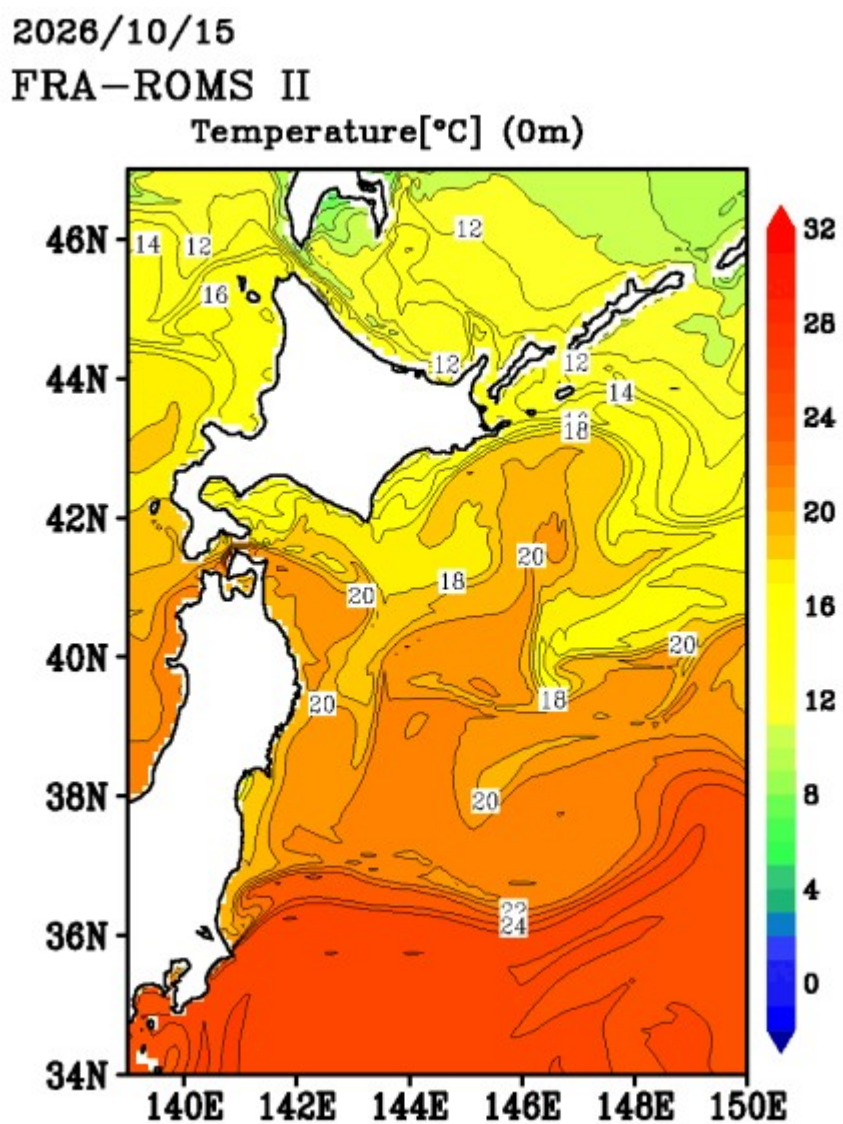
(2) 漁場

三陸海域の東側である気仙沼東160～180海里の漁場水温18～19℃では、9月29日以降、大型船5～35隻程度が操業し、最高で4.5トン、平均2.1トン漁獲した。

(3) 魚体

三陸海域の東側では、体長29～32cmが主体、体重120～150g台が主体であった。

4. 予測水温分布図

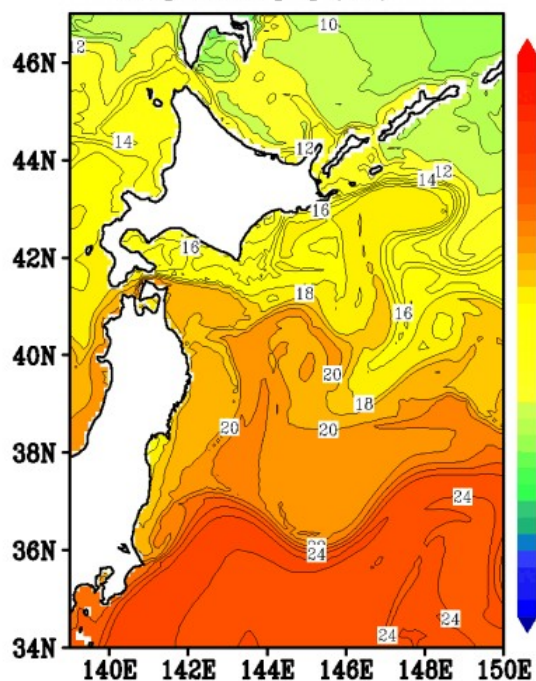


海況予測システムFRA-ROMS IIによる0m深予測水温（2026年10月15日）
2026年10月7日にHPより取得した

2026/10/25

FRA-ROMS II

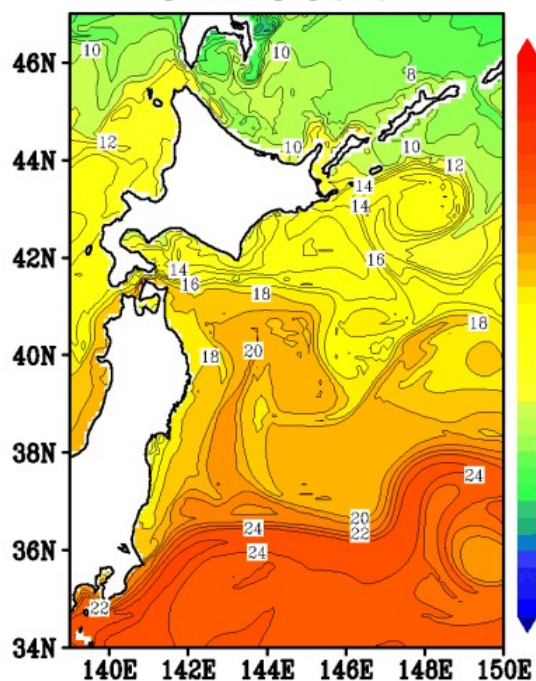
Temperature[°C] (0m)



2026/11/05

FRA-ROMS II

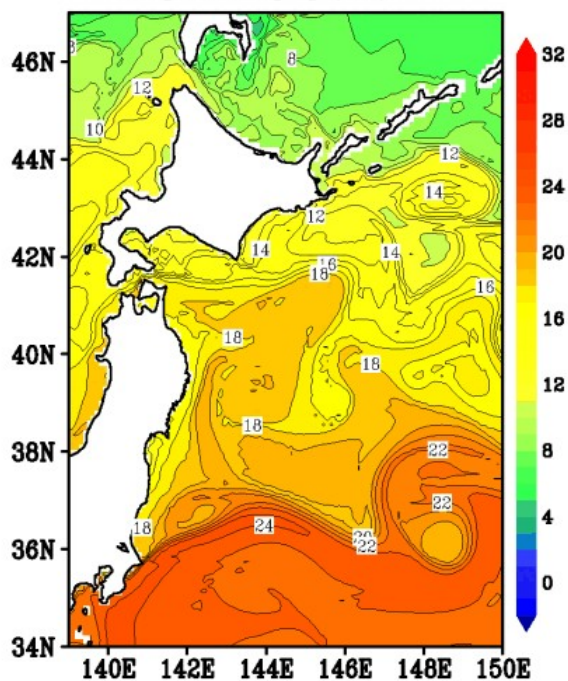
Temperature[°C] (0m)



2026/11/15

FRA-ROMS II

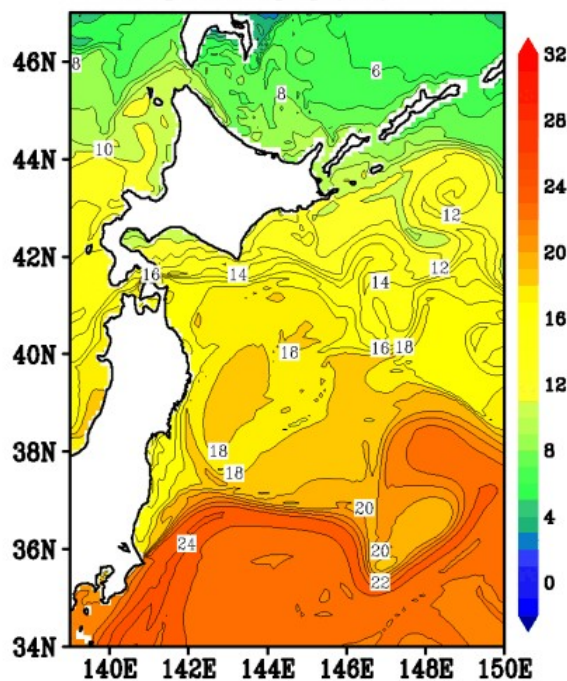
Temperature[°C] (0m)



2026/11/25

FRA-ROMS II

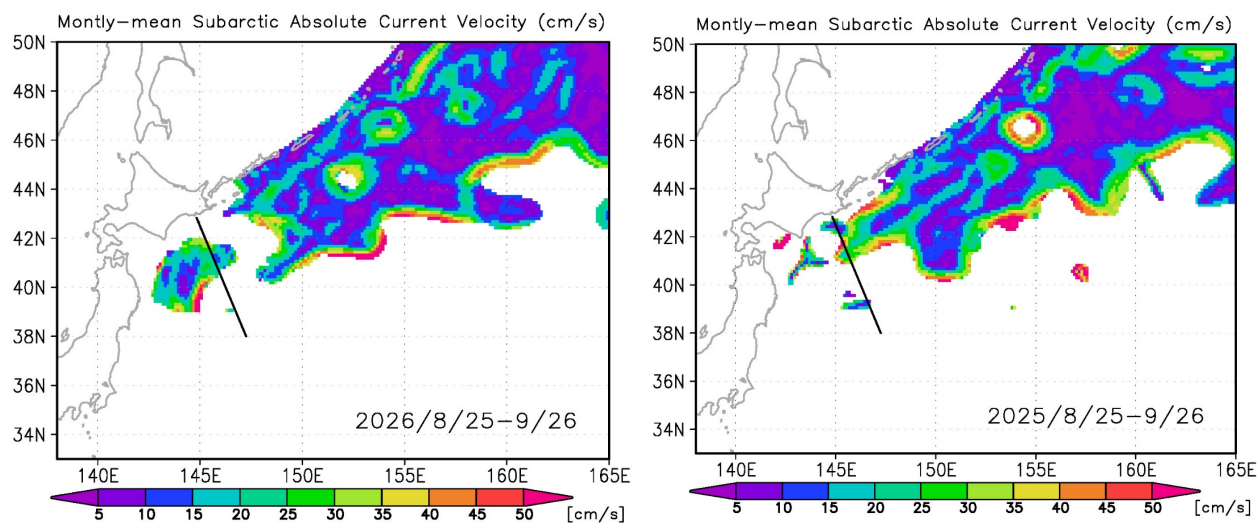
Temperature[°C] (0m)



海況予測システムFRA-ROMS IIによる0m深予測水温
2026年10月25日(左上)、11月5日(右上)、11月15日(左下)、11月25日(右下)
2026年10月7日にHPより取得した

5. 付属情報

人工衛星による海面高度データに基づいた8月25日～9月26日の西部亜寒帯循環の流路（2025年、2026年）



西部亜寒帯循環の月平均地衡流速（左図：2026年、右図：2025年）

西部亜寒帯循環は北西太平洋亜寒帯全域の海流の循環であるが、親潮はその南西端にあたる。人工衛星の海面高度計によって得られたデータから、この海流の強さと流路を推定することができる。今年の親潮第一分枝の差し込みは、道東沖の暖水渦の影響のため昨年に比べて南西方向への張り出しが小さく、海洋観測地点A-line（図中実線）よりも東側である。亜寒帯循環の月平均地衡流速の計算には、E. U. Copernicus Marine Service Informationを利用している（<https://doi.org/10.48670/moi-00149>）。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 岩手県水産技術センター 宮城県水産技術総合センター 福島県水産海洋研究センター	茨城県水産試験場 千葉県水産総合研究センター 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 (取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
--	--